



TITLE:

故石川興二名誉教授・哀辞

AUTHOR(S):

東京大学経済学会

CITATION:

東京大学経済学会. 故石川興二名誉教授・哀辞. 経済論叢 1976, 118(3-4)

ISSUE DATE:

1976-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/133672>

RIGHT:

經濟論叢

第118卷 第3・4号

哀 辞

故石川興二名誉教授遺影および略歴

| | | |
|------------------------------------|---------|-----|
| 国家独占資本主義論争における国家と社会…………… | 池 上 惇 | 1 |
| 合衆国の大規模農場経営の位置と その階級的性格(3)…………… | 中 野 一 新 | 18 |
| 「プロシア型」農業進化の構造・序論…………… | 加 藤 房 雄 | 48 |
| 利潤の内部留保, 新株発行を含む マクロ分配理論…………… | 加 納 正 雄 | 70 |
| アダム・スミスの国家論…………… | 中 谷 武 雄 | 83 |
| 差額地代論における資本主義的土地所有の形成…………… | 梅 垣 邦 胤 | 106 |

追 憶 文

| | | |
|--------------|---------|-----|
| 師 を 憶 う…………… | 出 口 勇 蔵 | 124 |
|--------------|---------|-----|

故石川興二 名誉教授 著作目録

昭和 51 年 9・10 月

京 都 大 学 經 済 學 會

哀 辞

本学名誉教授石川興二先生は 去る昭和51年3月25日京都大学付属病院において逝去されました ここに謹んで哀悼の意を表するものであります

先生は 大正6年京都帝国大学法科大学を卒業になり 大正9年11月より創設後間もない経済学部講師に就任 ついで彦根高等商業学校教授を歴任されたのち 大正15年より昭和21年に至るまで本学の助教授・教授として教育と研究指導に尽力されました 他方で昭和12年から3カ年間評議員として本学の運営に参画されるとともに 同14年には経済学部長として学部の拡充に寄与され また人文科学研究所設置については 本学関係教官の中核として尽されるなど 大学行政の面でも多くの貢献をされました

先生は経済哲学の先駆的学者として また経済学史研究の領域においても 学問へのひたむきな研究意欲をもって数多くの著作論文を発表され 学界に多大の影響を与えられました 昭和14年にすでに勲三等瑞宝章の叙勲を受けられたことは 先生の功績がいかに顕著であったかをしめすものであります

経済学部にて在職中 おおくの子弟を教育されるとともに京都大学経済学会の機関誌である本誌には 多くの貴重な論文を発表され わが学会のためことのほか尽力をいただきました 茲に 在天の先生の御霊にたいして ころから御冥福をお祈り申し上げます

昭和51年6月28日

京都大学経済学会



教授萩原三二名氏遺影

石川興二先生御略歴

| | |
|-------------|--------------|
| 明治25年5月16日 | 横浜市に生る |
| 大正6年7月13日 | 京都帝国大学法科大学卒業 |
| 大正9年11月9日 | 本学経済学部講師 |
| 大正14年4月21日 | 彦根高等商業学校教授 |
| 大正15年1月26日 | 京都帝国大学助教授 |
| 昭和5年9月3日 | 経済学博士 |
| 昭和5年11月10日 | 京都帝国大学教授 |
| 昭和14年2月10日 | 京都帝国大学経済学部長 |
| 昭和18年3月18日 | 人文科学研究所員 |
| 昭和21年5月13日 | 勅令263号により免本官 |
| 昭和27年6月1日 | 京都学芸大学講師 |
| 昭和27年10月29日 | 京都大学名誉教授 |
| 昭和33年4月1日 | 京都女子大学教授 |
| 昭和51年3月25日 | 御逝去 |
| | 正四位に叙せらる |